

「外人, 外国人, foreigner」に代わる表現方法について Aren't There Any Better Ways to Refer to Non-Japanese than *Gaijin*?

ミカトフ 山森孝彦
Mika TOFF Takahiko YAMAMORI

Abstract:

This paper reports the results of a study conducted to find out how students refer to non-Japanese people in order to consider the frequency of the use of *gaijin*, and to suggest alternative expressions that focus on people's identities rather than the fact that they are "different." It discusses the implications of a questionnaire that showed that many students used the word *gaijin* to refer to "people who came from other countries," specifically, "people other than Asian people"; "Westerners"; and "people who don't speak Japanese." In answer to the question, "Do you use the word *gaijin*," almost 40 percent of the students said that they did not, or consciously avoided its use. However, regardless of the expressions used, or whether the intent was to show prejudice or admiration, the connotation was consistently, "They are different from us." This trend was also found when writing in English, where the word most frequently used was "foreigners," to refer to "outsiders" or "people who are different."

はじめに

先日あるテレビ番組¹で、作家の村上龍が、サッカー・ワールドカップ2010日本代表監督岡田武史をゲストに迎え、監督業についてインタビューしていた。全日本の監督の報酬の話題になり、村上龍がザッケローニ監督も同じ1億円くらいと言っていたと言うと、岡田監督は「ただ『外人』の場合はネットでもらっていますからね」と答えたが、画面のテロップには「ただ『外国人』の場合は税抜き後」と表示された。その一方で、村上龍は「自分たちはワールドクラスと比べて…」と「外人」という言葉のかわりに別の表現方法を使って話を進めていた。

この「外人」という言葉が差別的な印象をあたえるという理由から新聞やテレビで使われなくなって20年ほど経つ^{2,3}が、日常的な会話の中では現在でも使われており、その様子を直接的または間接的に聞く度に、疎外感を感じるという外国人たちの声をよく耳にする。

「外人」の意味を辞書で確認すると、大辞泉⁴によれば、「1. 外国人、特に欧米人をいう 2. 仲間以外の人、他人」と定義されており、広辞苑⁵には「1. 仲間以外の人、疎遠な人 2. 敵視

すべき人 3. 外国人、異人」とある。どちらも記載順の違いこそあれ、国や国籍を基準とした区切りと、仲間の内と外の関係の意味があることが分かる。

一方、エッセイライティングの指導をしていると、英語で自分の考えを述べる時に「外人/外国人」に関連した事柄を表現しようとして学生が *foreigner* という英単語に置き換えて書いている例を数多く目にする。この *foreigner* の定義は *Oxford Advanced Learner's Dictionary*⁶ によれば、

- 1 a person who comes from a different country
The fact that I was a foreigner was a big disadvantage.
- 2 a person who does not belong in a particular place
I have always been regarded as a foreigner by the local folk.

と「異なる国からきた人」「ある場所に所属していない人」という意味があり、また上記の用例からも分かるように、その国や社会のマジョリティから見たマイノリティの立場を表す文脈で用いられることが多い。また、*Longman Advanced American Dictionary*⁷ の *foreigner* の項目にも次のような注意書きが付記されているように、やはり英語の *foreigner* という言葉も、排他的で否定的な印象を与えてしまう。

It is not polite to call someone from another country a foreigner because this can sometimes mean that they are strange or different in some way that you do not like.

(他の国から来た人の事を、*foreigner* と呼ぶと失礼になる。なぜならこの言い方は、自分からみて何か好ましくない、奇妙または異質だという意味にとれる場合もあるからだ。)

今回の研究では、学生たちが「外人」という言葉を日頃どのような文脈で使うのかを調査し、さらには、それをどのような英語で表現すれば適切であるかを考えてみたい。今回用いる基礎データとしては、ライティングの授業で学生たちが書いたエッセイ原稿の中から *foreigner* という単語やそれに関連した記述を選び出すとともに、それに加えてアンケート調査を行い「外人」もしくはそれに代わる言葉を用いた、学生が自分で使用すると思われる表現を日本語と英語で書かせてデータとして集めた。またアンケートでは「外人」はどういう人を指していると思うか、どれくらいの学生が「外人」という言葉を使うかについても調査した。

1. アンケートの調査方法

2010年10月に本学(文化創造学部/文学部/コミュニケーション学部)学生45名(男5名女40名)と愛知県内の私立医科大学(医学部)学生86名(男53名女33名)に対して質問紙(記名式)を用いて次のような質問を行った。

- 1 一般的に「外人(がいじん)」という言葉はどのような人を指して使われていると思いますか。
- 2 あなたは「外人」という言葉を使いますか？（ 使う 使わない ）
→ 「使う」と答えた人は、「外人」という言葉を使った（自分が今までに使ったことがあるか、使いそうな）日本語の文を2つ書いて下さい。
→ 「使わない」と答えた人は、なぜ使わないですか。
かわりにどんな言葉で表現しますか。その言葉を使った（自分が今までに使ったことがあるか、使いそうな）日本語の文を2つ書いて下さい。
- 3 2で書いた文を各々英語で書いてみて下さい。

2. アンケートの調査結果

(ア) 学生が考える「外人」という言葉の定義

「外人という言葉はどのような人を指して使われていると思うか」に対する 131 名からの回答は大別すると次のような内容のものであった。なお、複数回答があるため合計は 100%を超える。

- ① 外国籍(58名 [44.3%])
「日本国籍でない人」「外国籍の人」というように、国籍や出身国が日本でない人。
「日本人ではない人」などがあつた。
- ② 人種と外見(37名 [28.2%])
「主に白人に対して使い、黒人にも使うが、アジア系の人には使わない」というような内容の回答をした学生が複数おり、また、「日本国籍でも見た目が日本人っぽくない人」という回答もあつた。
- ③ 言語と文化、振る舞い(15名 [11.5%])
「文化が異なる人」「話している言葉が自分の言語と違うなど感じた人」「第一言語が日本語じゃない人」「日本語が話せない人」など。
- ④ 内と外（所属集団の価値観、規範、行動様式から外れる）(4名 [3.1%])
「人にとっての常識がケタはずれにない人」「コミュニケーションがとれなかったり、あるいは考え方が理解できない人に対しても使う」「宇宙人」など。
- ⑤ 理由の記載なし、その他(22名 [16.8%])

(イ) 「外人」という言葉を使うかどうか

- 「使う」 82名 [62.6%]（本学 [57.8%]，他大学 [65.1%]）
「使わない」 49名 [37.4%]（本学 [42.2%]，他大学 [34.9%]）

(ウ) 「外人」という言葉を使わない理由

- ① 言葉から受ける印象(49名中25名[51.0%])
 1. 排他的な感じがするから。自分たち以外は外の人という雰囲気強い。
 2. 日本国内を「内」としてそれに対する「外」人としたイメージでかなり差別的なイメージ。閉鎖的なイメージ。
 3. 外の人と日本人を差別し相手を粗雑に扱っている気がする。
 4. 外の人、自分たちと違う「よそ者」といった感じの人間といった意味に聞こえる。
 5. 外人という響きが失礼に感じるから。
- ② 親のしつけや学校教育によるもの(49名中9名[18.4%])
 1. 幼い頃に母に「外人は差別用語だから使わないで」と言われたため。
 2. 小学校の時に外人という言葉を使ってはいけないと習った。
 3. 中学の頃外人という言い方は良くないと聞いたから。
- ③ どんな感情を抱くかを外国人から聞いたため(49名中5名[10.2%])
 1. 外国人に、外人と言われるのはいい感じがしないとされたから。
 2. イギリス人の友人が、outsider(よそ者)とされているようで嫌だと言っていたので
- ④ その他(49名中10名[20.4%])

「理由の記載なし」9名、「話題に出ないから」1名がいた。

「外人」という言葉を使う学生が大多数ではないかと事前予想する教員もいたが、予想に反して、医学部でも1/3以上の学生が、語学系の学部では4割以上の学生が「外人」という言葉は使わないと答えていた。「使わない」学生の中には「差別用語だから『海外の方』と言うようにしている。使っている人がいたら注意する」と使用中止を他者にも働きかける学生もいるほどであったが、その一方で「使う」と答えた学生の中には「外人は差別しているような言い方だ。極力、外国人と使うようにしているが間違えて使う」「外人という言葉は使わない方がいいと思ってはいるが、ついつい使ってしまう」「外人って若干粗野な呼び方に感じたりもする。割と使っているが」また「外人という言葉は使いたくないが、これを一言で表すのが難しいので、会話の場合には使用する」と答える学生もおり、語彙に対する意識と言語行動とが一致していない学生がいる現実があることも今回の調査結果から分かった。

(エ) 外人という言葉を使った日本語の例文

「外人」もしくはそのかわりとなる言葉を使った日本語の文を学生たちに2文ずつ書かせたところ、次のような245文が得られた。

- ① 認知・報告（71文 [29.0%]）
 1. あっ、外人さんだ。
 2. 今日、外人がバイト先に来た。
 3. 大学に来る途中で外人を見かけた。
 4. 店員さん外国人だったよ。など
- ② 容姿・外見（57文 [23.3%]）
 1. あの外人は目が青いね。
 2. やっぱ外人はスタイルが良いね。
 3. 外国の人って背高いよね。
 4. 外国人は鼻が高くてホリが深くていいな。など
- ③ 言葉運用（24文 [9.8%]）
 1. 外人さんがいる！話してみたい！
 2. この前、駅で外人に話しかけられた。
 3. あの外人の言っていることわかんない。
 4. 私は外人の先生に英語を習っている。など
- ④ 異文化（24文 [9.8%]）
 1. 外人さんはレディーファースト。
 2. 外人の人たちってこういう所が違うかも。
 3. 外国人と日本人はダンスの仕方が違う。
 4. 日本の文化を海外の方に紹介したいです。など
- ⑤ 印象・先入観（21文 [8.6%]）
 1. 外人なのに髪が黒い。
 2. 外人なのに日本語がうまいなあ。
 3. あの人は外人さんだから分からないと思う。
 4. 外人はケーキが好きです。など
- ⑥ 国籍・出身国（16文 [6.5%]）
 1. アメリカ人は外人だ。
 2. 彼は外国から来た人だ。
 3. 外国人には参政権がない。など
- ⑦ あこがれ・願望・コンプレックス（13文 [5.3%]）
 1. 英語できねえよ。オレ外人じゃないもんな。
 2. ああ外人になりてえ。
 3. 街で、夫や彼氏が外国人で妻や彼女が日本人の家族やカップルを見ると、「わあ、パパ外人なんだね。すごいね。かっこいいね。」とか友達と話したりする。この

時の「かっこいい」は、その外国人の見た目はもちろん、奥さん（彼女）に対してのあこがれや尊敬が入っていて、外国の人と上手くつきあっていることがすごいと思う。など

⑧ その他 (19文 [7.8%])

学生たちが日頃よく使うような例文で、一番多かった①『認知・報告』の例文は、日本人ではない存在を認知し、それを報告するといったものだが、これは日本人の多くが感じてしまう「日本人以外の人を目にした時、最初に思うことは『外国人』ということ⁸⁾」なのだろう。また、②『容姿・外見』③『言語運用』に分類した例文の中には「外国の人ってかっこいいよね」「あの外人さんのように母国語が話せたらなあ」といった⑦『あこがれ・願望・コンプレックス』に重なるものも多い。やはり、人種的な羨望や欧米文化崇拜の潜在的な気持ちがある⁹⁾ことを伺わせ、また英語学習で苦勞している学生たちの本音が見えるところでもあろう。

3. 英語ではどのように表現すれば適切か

次に、エッセイライティングの授業や今回のアンケート結果から得られた例文をどのような英語で表現すれば読み手に不快感や違和感を与えないようにすることができるかを考えてみたい。

(ア) 出身国に目を向けた表現にする

よその国からきた foreigner というのではなく、国名を具体的に述べることで話題となる人のアイデンティティを尊重することができるだろう。

① 「友達が外人とつきあっている。」

My friend is dating a foreign person.

と言うと、外国人であるということが強調され、外国ならどこ国でもよいという印象を与えてしまうので、次のように言った方が読み手にとって感じの良い印象になるだろう。

→ **My friend is going out with an American guy.**

(友達がアメリカ人の男性とつきあっている。)

② 「次の監督は外国人らしい。」

I heard that the next coach is going to be a foreigner.

「外人,外国人,foreigner」に代わる表現方法について（ミカトフ他）

ここでは「外国人」であるということよりも、監督を他の国から招くということがポイントだと思われる。次の監督がどこの国から来るのかが分かっていたら次のように言うことが出来る。

→ I hear the new coach is coming from Italy.

（次の監督はイタリア人だって。）

こうした出身国や国籍を言及する表現方法は、前述の Longman 辞書の foreigner の注意書きの後半にも次のように推奨されている。

You should say that someone is “from Canada/Japan/Russia” or use a noun referring to their nationality instead. (その人がカナダ・日本・ロシアから来た人であると言うか、彼らの国籍を表す名詞を使うのが良い。)

もしどこの国なのかが分からないとか、思い出せないと言うことであれば、次のように言うことも出来る。

→ I hear the next coach is coming from abroad.

(イ) 言語的な側面に目を向けた表現にする

① 「外国に行って、外国人と英語で話がしたい。」

I want to go abroad and talk with foreigners in English.

学生たちが「外人/外国人」という言葉を使うときは、外国語話者、とりわけ英語話者であることを話題にしていることが多い。たとえば英語を勉強する目的を聞くと、上記のように答える学生がいるが、ここで気づいてほしいことは、日本人も外国に行ったら外国人になるということである。また foreigners という言葉が「よそ者」という意味も含むので、people of various cultures（色々な文化の人たち）という言い方に変えたい。

→ I want to go abroad and talk in English with people of various cultures.

また、訪れた先で現地の人たちと話がしたいというのであれば次のように表現することもできる。

→ I want to go abroad and talk in English with the locals.

② 「外人に英語を習っている。」

I learn English from a foreigner.

先生が外国人であることを表現したいのではなく英語のネイティブスピーカーに習っているということを言いたいのだろうから、次のような表現が適当だろう。

→ My English teacher is a native speaker.

(先生はネイティブスピーカーだ。)

③ 「駅で外人に道を聞かれて困った。」

A foreigner asked me the way...

この場合、困るのは、言葉が通じないことが理由として考えられるので、次のような英文にしてはどうだろうか。

→ At the station today, a man suddenly asked me the way in English and I had a hard time explaining.

(今日駅で、突然英語で道を聞かれて説明に苦労した。)

(ウ) 世界の色々な文化に目を向けた表現にする

① 「外国人と友達になりたい。」

I want to become friends with foreigners.

上の文のように具体的な国ではない場合は、次のように表現することもできる。

→ I want to become friends with people from many different cultures.

(色々な文化の人たちと友達になりたい。)

ここで countries でなく cultures を使うのは、住んでいる人の国は一緒でも文化は様々であることが多いからであり、nationalities を使わないのも、国籍と文化が必ずしも一致しないからである。たとえば国籍はアメリカ人でも、日本で生まれて育ったということがあるかもしれない。

「外人,外国人,foreigner」に代わる表現方法について（ミカトフ他）

- ② 「最近名古屋でも外人をよく見る。」

Recently we often see foreign people even in Nagoya.

これも、色々な文化の人たちが集まって来ているのに、すべての外国人を foreign people という言葉でひとくくりにはしたくない。そこで、

→ Nagoya is becoming more and more multicultural.

(名古屋もだんだん多文化的になってきている。)

と言ってはどうだろうか。

(エ) 一人一人の顔が見えるような表現をする

- ① 「あの外国人はどここの国の出身だろう。」

Where is that foreigner from?

あの外国人 that foreigner という言い方では「外見が日本人と違う」ことだけが強調され「あのよそ者はどこから来たのか」というニュアンスになってしまうので、

→ I wonder where that person wearing the national costume comes from.

(あの民族衣装を着た男性はどここの国の人だろう。)

というように、その人の服装や特徴などを説明すると、相手の個性に目を向けた表現になるだろう。相手が日本人の場合なら「あの黒いジャケットを着ている人」「あの背の高い人」というのと同じである。

- ② 「今日電車の中で沢山の外国人を見た。」

Today I saw a lot of foreigners on the train.

学生たちに尋ねてみると、これは「珍しかった」という「報告」のようなもので、それ以上会話が続くわけでもないらしい。しかし「珍しかった出来事」として完結するのではなく、その次の会話へと話題を展開して行きたい。

→ On the train today, I saw a lot of people from different cultures. I wonder if they were people who came for COP10?

(今日は電車で色々な文化の人たちを見かけた。COP10のために来ている人たちだろうか。)

③ 「外国人のためのボランティア活動をしている。」

I do volunteer work for foreigners.

この場合は foreign residents というように形容詞を使って、表現を和らげた上で、どこから来た人たちなのか、そして日本で暮らす上で何を必要としている人たちなのか、ということを説明すると、人々の顔が見えてくるのではないだろうか。

→ I do volunteer work helping foreign residents in Toyohashi who have recently come from Brazil to work in Japan and don't speak Japanese well yet. We help the children learn to read and write and help them with their homework.

(日本に来たばかりで、まだ日本語を十分に話すことの出来ない、豊橋に住んでいる外国人の人たちを手助けするためのボランティア活動をしている。子供たちに読み書きを教えたり、宿題を手伝ったりしている。)

④ 「外人と結婚したい。」

I want to marry a foreigner.

女子学生がこのようなことを言うのを時々耳にする。この場合の「外人」というのは背が高く目キレイな白人、レディーファーストで優しくて、というような、例えば、漫画「ダーリンは外国人¹⁰⁾」のダーリンのイメージである場合が多い。でも、I want to marry a foreigner. では、外見だけのイメージになってしまうし、foreigner という言葉も印象がよくない。そこで、

→ I want to marry a man who comes from a different culture.

といえ、文化の違う人と結婚したいという意味になる。女の子同士の会話などでもっと具体的な理想を伝えなければ、

→ I want to marry a guy with blond hair and blue eyes.

(ブロンドで目の青い男性と結婚したい。)

「外人,外国人,foreigner」に代わる表現方法について（ミカトフ他）

→ I want to marry a guy who looks like Brad Pitt.

（ブラッド・ピットのような人と結婚したい。）

→ I want to marry somebody like the husband in the comic, *My Darling is a Foreigner*.

（「ダーリンは外国人」に出てくるダーリンのような人と結婚したい。）

と言うこともできる。また「子供がハーフで可愛いから」という理由をあげる学生もいるが、それを直訳すると表面的な表現になってしまい軽薄な印象を与えてしまったり、差別的な表現になってしまうこともある¹¹。「複数の言語や文化を兼ね備える」というような表現の方が知的な印象を与えることが出来るだろう。

→ I want to marry a guy who speaks English so that my children will be bilingual.

（英語を話す人と結婚したい。子供がバイリンガルに育つから。）

ここでは、bilingual の代わりに bicultural もしくは multicultural という表現を使うこともできる。

そして、冗談半分かもしれないが、文化の違う人と結婚して欲しいと親が言うというような場合は、こんな風にも書くこともできる。

→ My parents want me to marry somebody from a different culture so that they might be able to live abroad when they retire.

（親が、定年後に外国で暮らしたいから他の国の人と結婚してほしいという。）

（オ） その他の表現方法について

① 世界の人たちという視点

「外国の人たちに、日本の映画の良さを知ってもらいたい。」

I was happy to hear that *Okuribito* received the Academy Award. Foreigners will know how wonderful Japanese movies are. I want foreigners to see Japanese movies and I want them to be interested in Japan more and more.

ここで foreigners を使うと「よその国の人」に知ってもらいたいという意味になるが、言いたいのは「世界中の人々」に知ってもらいたいということなのではない

だろうか。そうすると、**people all over the world** という言い方の方が肯定的であろう。

→ **People all over the world will know how wonderful Japanese movies are. I want many people to see Japanese movies and I want them to be interested in Japan more and more.**

(世界中の人が日本の映画の素晴らしさを知ってくれる事になる。沢山の人たちに、日本の映画を見てもらい、もっともっと興味を持ってもらいたい。)

② 相手の話す日本語をほめる場合

「彼はアメリカ人だけど日本語がとても上手い。」

He is American but his Japanese is very good.

He is American but の部分があることで、外国人には日本語がマスターできるはずがないというニュアンスになってしまう。例えば、日本語も出来る英語のネイティブスピーカーを探している相手に、適任者を紹介する場合などは、

→ **His Japanese is very good.**

(彼の日本語はとても上手いですよ。)

と客観的に情報を伝えるだけで十分だろう。ちなみに、外国人に対して褒め言葉のつもりで「日本語がお上手ですね」と面と向かって言うと、相手の気分を害することもある。英語圏では **Your English is very good.** と言われたら、外国人扱いされていることになり、「あなたの英語はまだまだですね」という意味にもなる。これはちょうど、若い人に対して「お若いですね」と言わないのと同じことだろう。

4. まとめと考察

今回調査した学生たちからは「外人」の定義として「日本以外の国の人」「外国の人」のような国籍の違いを述べた回答が得られたほかに「アジア人以外の人種」のような人種の違いを述べる回答もあり、これは「外国人、特に欧米人をいう」という辞書の定義や先行研究¹²とほぼ一致するものであった。また、「外人という言葉を使うか」という問いに対しては、約4割の学生が「使わない」と答え、その理由として「差別的、排他的な響きをする」ことを挙げ、そう考えるようになった経緯として、親の躰や教師の指導、そして外国人の心情を直接耳にした経験などを述べていた。

次に「外人」という言葉を使わない学生が、代わりに使う表現では「外国人」という言葉が最も多く、また、英語に直した場合に最も多かったのは **foreigner** という単語であった。本論では、そうした「外人/外国人/foreigner」に関する記述を「出身国」「使用言語」「文化」「個性」に注目した英語表現を用いることで、排他的な印象を与えない表現方法を試みた。

「外人」という言葉が差別用語なのか¹³、使用を規制することが言葉狩りなのかという議論はさておき、便利な言葉であると同時に、多義的な言葉であることは事実であろう。西洋文化に対する「あこがれ、尊敬」などプラスのイメージで使っているのだから使っても悪くないのではないかという人もいる。しかし、ここで忘れてはならないのは、言葉というものは、言う側がどういう意味合いと気持ちかをこめて使っているかだけでなく、言われた側がどういう意味合いと気持ちで受け取るかということに配慮しなければならないということである。

また、今回の発見の1つは、平成生まれの大学生たちにとっては、彼らが生まれた頃にはもうすでに新聞やテレビでは「外人」という言葉の使用が自粛されていたという事実だろう。そして「使うのは良くない」と躓けられ、自ら使わないように気をつけている学生たちの目には「外人」という言葉の使用者が、言葉使いが乱暴とか、差別的に映ってしまう可能性もあるだろう。

おわりに

最後に、本論文の冒頭で触れた、テレビや新聞で「外人」の使用をやめるきっかけとなった阪神タイガースのバース選手とプロ野球協約について述べた朝日新聞¹⁴の記事の抜粋を紹介したい。

ペナントレースの最終戦。十月二十四日の巨人戦だった。バースはその試合で四度、四球で歩かされることになる。すでに三冠王の獲得は、確実だった。問題は本塁打の数だった。バースのシーズン通算本塁打は、五十四本。王貞治のプロ野球記録五十五本にあと一本と迫っていた。

「巨人の投手は、一人もストライクを投げてこなかった。ボクが、ガイジンだからか」。彼は日記に書きつけた。「僕は、ガイジンだから、いつまでも、よそものだ。」(中略)

ガイジン。バースの疎外感が集約されていた単語に、日本球界は、的はずれな対応をした。一九九一年になって、野球協約を改正した。「外人」の字句を「外国人」に改めたのだ。「外人という呼び方は、害人に通じる。差別的な語感があるし、スポーツマスコミも外人という表記をやめてください」。プロ野球機構首脳の説明だった。字句の改正で、外人選手が感じてきた違和感がなくなったとは、とても思えなかった。

摩擦を避けるために「外人」という言葉の代わりに「外国人」という言葉を使うことで、差別的なニュアンスを弱めることはできるかもしれない。しかし、単に「外国人」という言葉に置

き換えただけでは「自分たちと違う」「物珍しい」「近寄りがたい」という意識を脱却して行くことは難しいのではないだろうか。具体的に、どこ国の、どういう文化を持った、どういう個人なのかということ意識して、相手の目を見て、違いは認めながらも、上でも下でもない同じ地球人として、対等な立場で付き合うことが大切なのではないだろうか。

参考文献

- 1 カンブリア宮殿 (2010年10月14日) テレビ東京<http://www.tv-tokyo.co.jp/cambria/dogatch.html>
- 2 日本プロフェッショナル野球協約1991年 (1991) 日本野球機構
- 3 日本プロフェッショナル野球協約1992年 (1992) 日本野球機構
- 4 大辞泉 (1998) 第一版 小学館
- 5 広辞苑 (2002) 第五版 岩波書店
- 6 *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2010) 8th edition. Oxford University Press
- 7 *Longman Advanced American Dictionary* (2000). Pearson Education Limited
- 8 林麻衣子, 森淑江 (2003) 外国人妊婦の外来診療に対するニーズ調査『群馬保健学紀要』23号 群馬大学
- 9 岩男寿美子 (1985) 広告モデルの広告効果—外人モデルと日本人モデルの比較 『慶応義塾大学新聞研究所年報』 pp.49-75 慶応義塾大学新聞研究所
- 10 小栗左多里 (2002) 『ダーリンは外国人—外国人の彼と結婚したら、どーなるの?ルポ』メディアファクトリー
- 11 堀田 貢得 (2008) 改訂版 実例・差別表現 あらゆる情報発信者のためのケーススタディ pp.221-222 ソフトバンククリエイティブ
- 12 坂田史 (2009) コミュニケーションの場「外人/gaijin」が映し出す日本人と白人の相互関係『ヒューマン・コミュニケーション研究』37号 pp.131-150 日本コミュニケーション学会
- 13 岡本佐智子 (2009) 「不適切な」日本語表現考 『北海道文教大学論集』 第10号 pp.63-73
- 14 朝日新聞 (1997年05月11日朝刊) オピニオン 「バースとウッズの孤独」